

(追録)

神 崎 遺 跡

福岡県田川郡金田町所在の遺跡

金田町文化財調査報告書

第 1 集

1994

金田町教育委員会

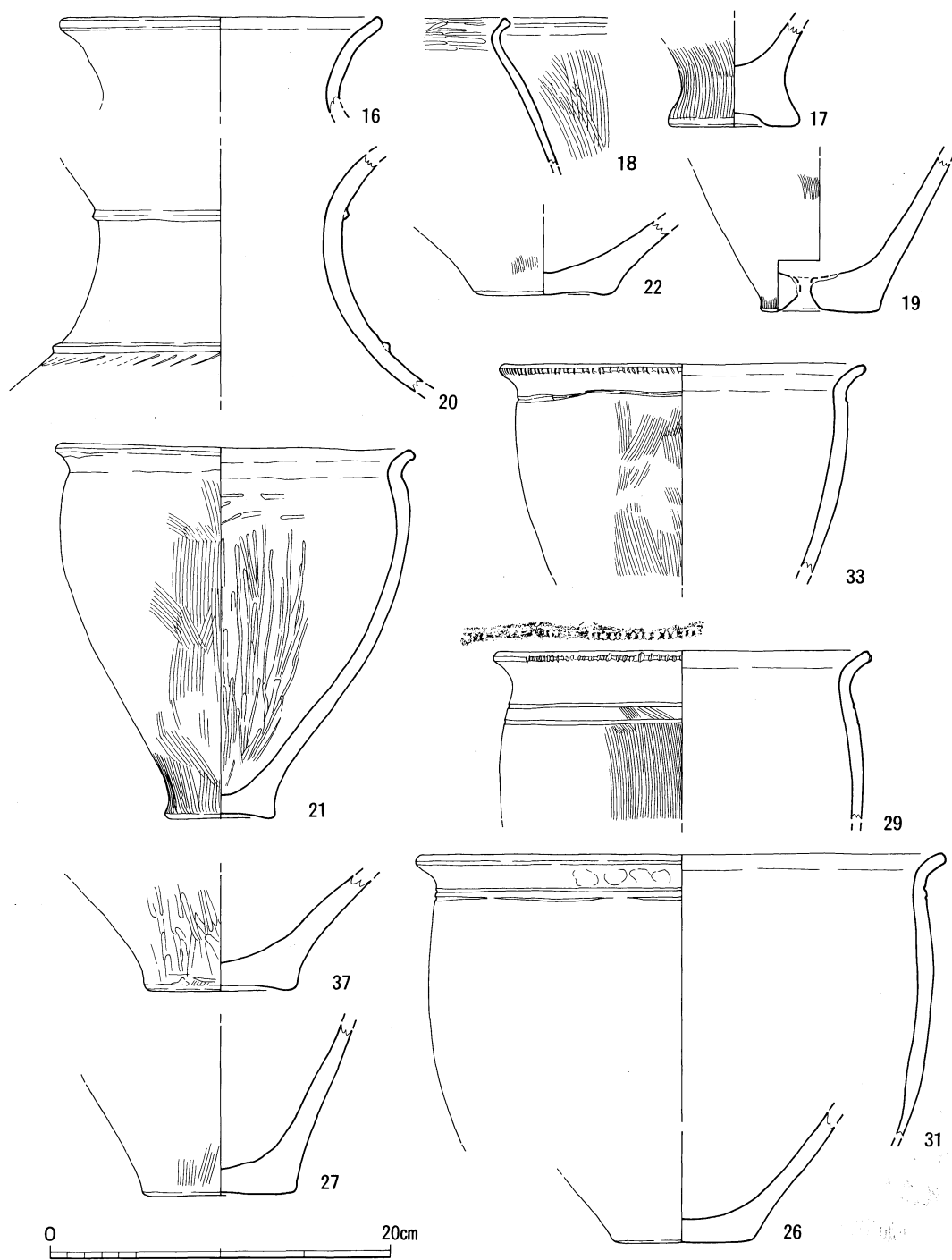
(補 記)

「神崎遺跡」の発掘調査報告書脱稿後、土器等の未整理ケースを確認したので、ここに追録することとします。調査担当者の不注意により、関係各位に大変御迷惑をかけてしまい誠に申し訳ありませんでした。

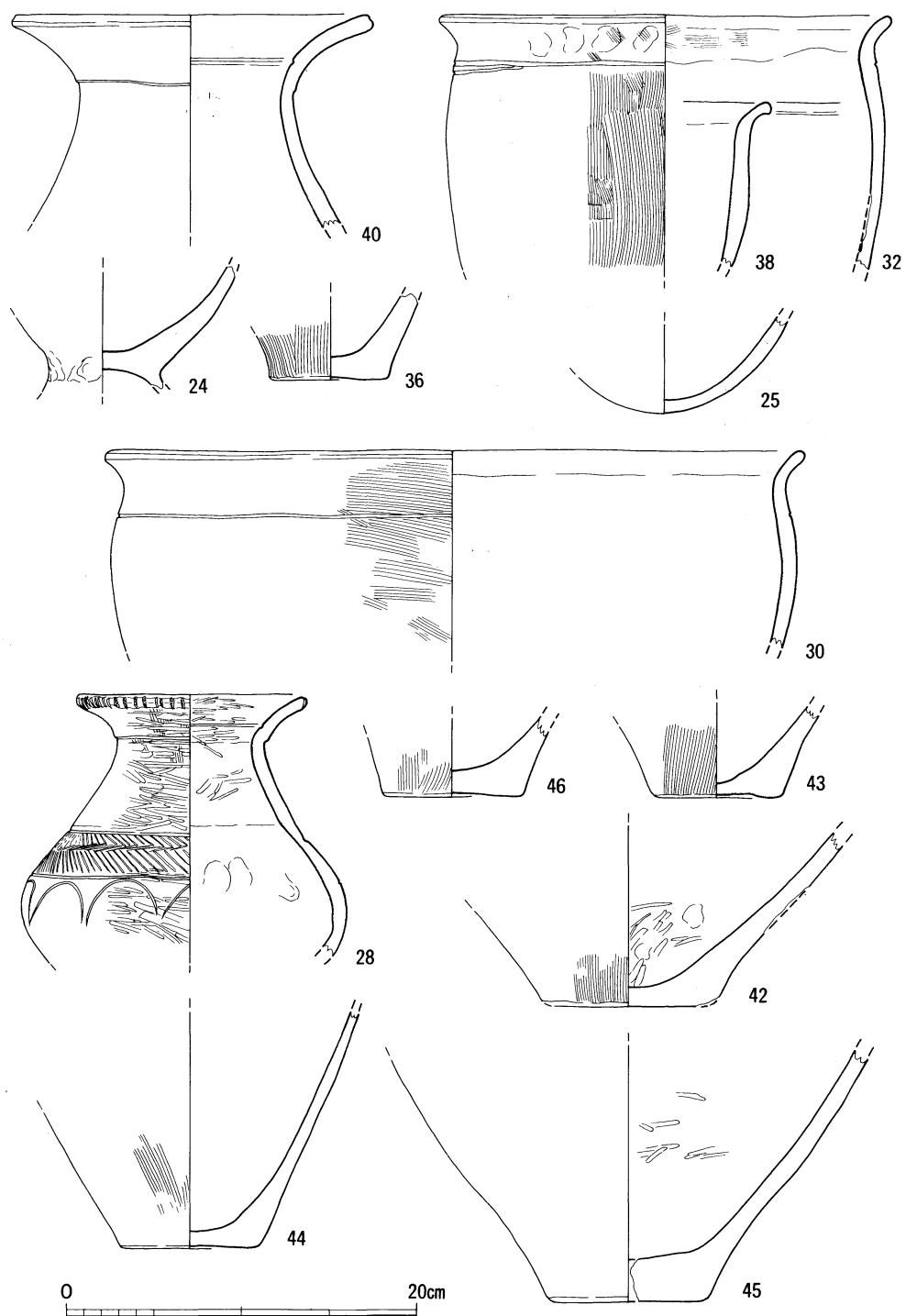
弥生土器 (図版 1～4、第 1～4 図)

16～22は 1 号貯蔵穴出土。16は「ハ」の字に開く壺口縁部である。復元口径19cmである。色調は黄橙色である。17はやや外方に張り出す上げ底の底部である。底径 7 cmである。調整は外面縦刷毛目、内面ナデである。色調は茶褐色である。18は口縁部片である。外面に煤が付着する。調整は口縁部横ナデ、体部外面縦刷毛目、内面頸部横磨き、内面体部ナデである。色調は赤褐色である。19は底部である。底部には焼成前外面から穿孔されている。底径 7 cmである。調整は外面に若干刷毛目が見られる。色調は黄褐色である。20は壺頸部で、頸部上下端それぞれに 1 条の断面三角突帯を貼り付ける。また下端の突帯の下には斜め方向に連続した沈線を施す。調整は外面剥離のため不明、内面ナデである。21は如意形口縁部を持つ甕である。底部はやや上げ底である。外面胴部に煤が付着する。調整は口縁部ナデ、外面体部縦刷毛目の後斜め方向刷毛目、外面底部刷毛目、内面磨きである。色調は褐色である。復元口径21.1cm、底径6.6cm、器高21.6～22.5cmである。22は底部である。底径7.6cmで、色調は褐色である。

24～33、36～38、40は 2 号貯蔵穴出土。24は脚台付きものである。調整は内外面共ナデである。色調は黄褐色である。25は碗状の底部で、色調は淡橙褐色である。調整は内外面とも剥離のため不明である。26は底部である。調整は内外面共剥離のため不明である。底径8.4cmである。27は底部である。調整は外面縦刷毛目、内面ナデである。内面には煤が付着する。底径 9 cmである。28は底部を欠失した壺である。口径13.1cmを測る。各部位の装飾が豊富で、口縁端部に刻み目を施し、頸部上下端に段を持ち、体部上半には段と沈線に区画された中に綾杉文を巡らし、胴最大径部には円弧文を施す。また内面口縁部下端には 1 条の沈線を巡らす。調整は外面刷毛目の後、丁寧な磨きを行う。色調は褐色である。29は如意形に開く甕口縁部である。口縁端部下方に刻み目を、体部上半に 2 条の沈線を巡らす。復元口径27cmを測る。調整は口縁部内外面横ナデ、体部外面縦刷毛目、内面ナデである。色調は褐色である。30は如意形に開く甕口縁部である。体部上半に 1 条の沈線を巡らす。復元口径40cmを測る。調整は外面横刷毛目、内面剥離のため不明。色調は褐色である。31は如意形に開く甕口縁部である。体部上半に 2 条の沈線を巡らす。復元口径21cmを測る。調整は内外面共剥離のため不明。色調は橙褐色である。32は如意形に開く甕口縁部である。体部上端に沈線を巡らす。調整は口縁内外面横ナデ、外面体部細かい縦刷毛目、内面頸部横刷毛目、内面体部ナデである。口径25.6cmを測る。色調は褐色である。33は如意形に開く甕口縁部である。口縁部下端に刻み目を巡らす。体部上半に 1 条



第1図 1号~2号貯蔵穴出土土器実測図(1/4)



第2図 2号~3号貯蔵穴出土土器実測図(1/4)

の沈線を巡らす。体部外面に一部煤が付着する。復元口径21.4cmを測る。調整は外面刷毛目、内面ナデである。色調は灰黄褐色である。36は底部である。底径6.8cmを測る。調整は外面縦刷毛目、内面ナデである。37はやや上げ底になる底部である。底径8.8cmである。調整は外面縦磨き、内面ナデである。色調は灰黄褐色～橙褐色である。38は如意形に開く口縁部片である。調整は内外面共剥離のため不明である。色調は黄茶褐色である。40は「ハ」の字に開く壺口縁部である。口径20.7cmである。外面頸部には段を巡らし、内面には1条の沈線を施す。調整は体部内外面共ナデである。色調は茶褐色である。

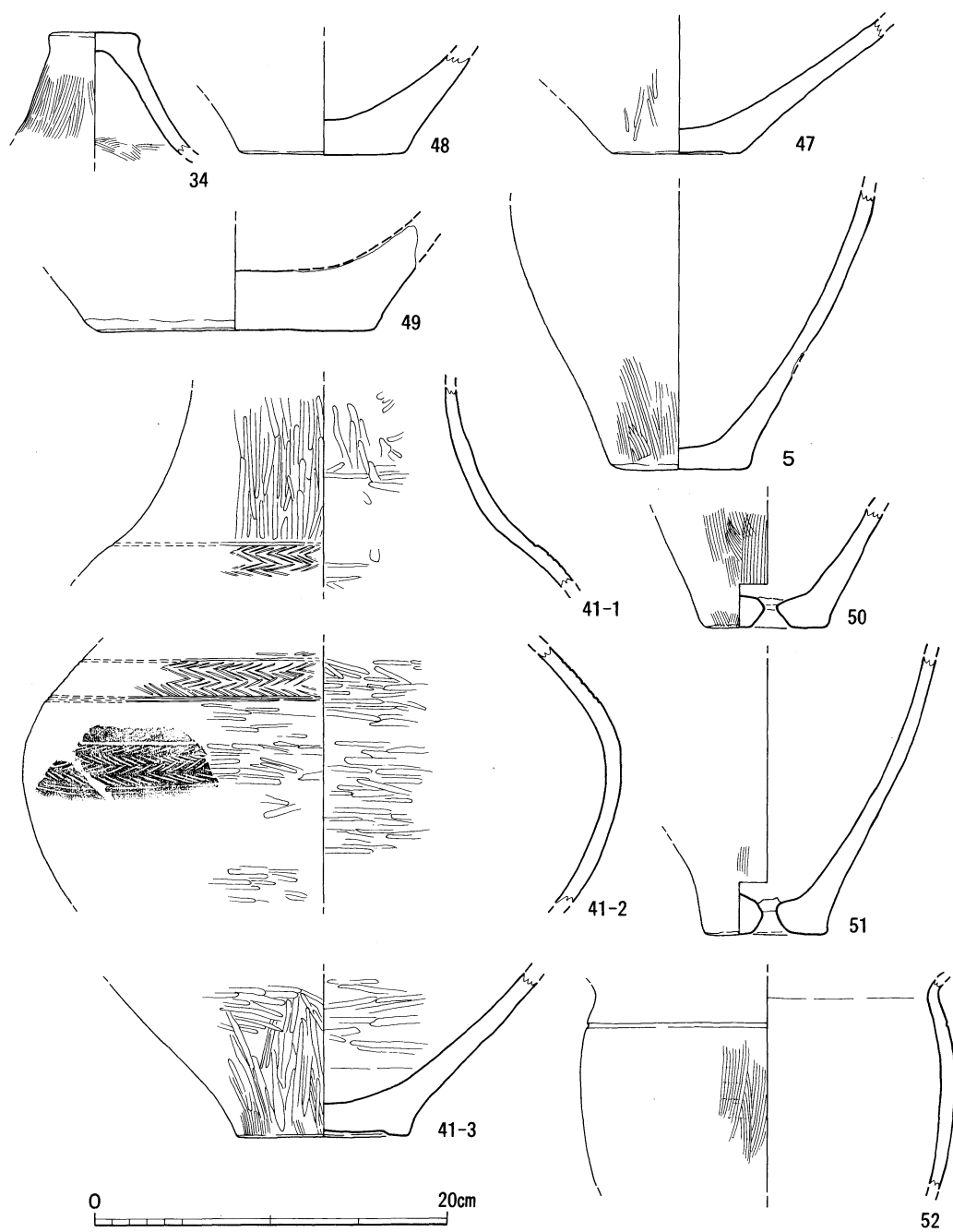
41～46は3号貯蔵穴出土。41は壺の口縁部以外の3点であるが、同一個体と思われる。しかしそれぞれ異なる貯蔵穴から出土している。頸部は9号貯蔵穴、体部は7号貯蔵穴、底部は3号貯蔵穴である。体部は球状に張り出す。底部は若干上げ底である。頸部と体部の境には上側1条、下側2条の沈線で区画された中に綾杉文を施す。調整は内外面共全体に磨きで、底部下端に刷毛目が見られる。体部下半から底部にかけて黒斑が見られる。頸部外面一部には赤色顔料が付着する。色調は黄褐色である。体部最大径34cm、底径10cmを測る。42は底部である。底径10cmを測る。調整は外面底部辺刷毛目である。色調は黒褐色である。43は底部である。底径6.4cmを測る。外底面には指頭圧痕が見られる。調整は外面刷毛目、内面ナデである。44は底部である。底径8.1cmを測る。色調は褐色～茶褐色である。45は底部である。底径8.4cmを測る。色調は茶褐色である。46は底部である。底径8cmを測る。調整は外面縦刷毛目、内面剥離のため不明である。色調は茶褐色である。

34と47～49は4号貯蔵穴出土。34は蓋である。調整は頂部ナデ、体部刷毛目、内面上部ナデ、下端刷毛目である。色調は灰黄褐色である。47は底部である。底径7.6cmを測る。調整は外面磨き、内面ナデである。48は底部である。底径9.5cmを測る。色調は黄橙色から暗黄茶褐色である。49は底部である。底径16cmを測る。色調は黄茶褐色である。

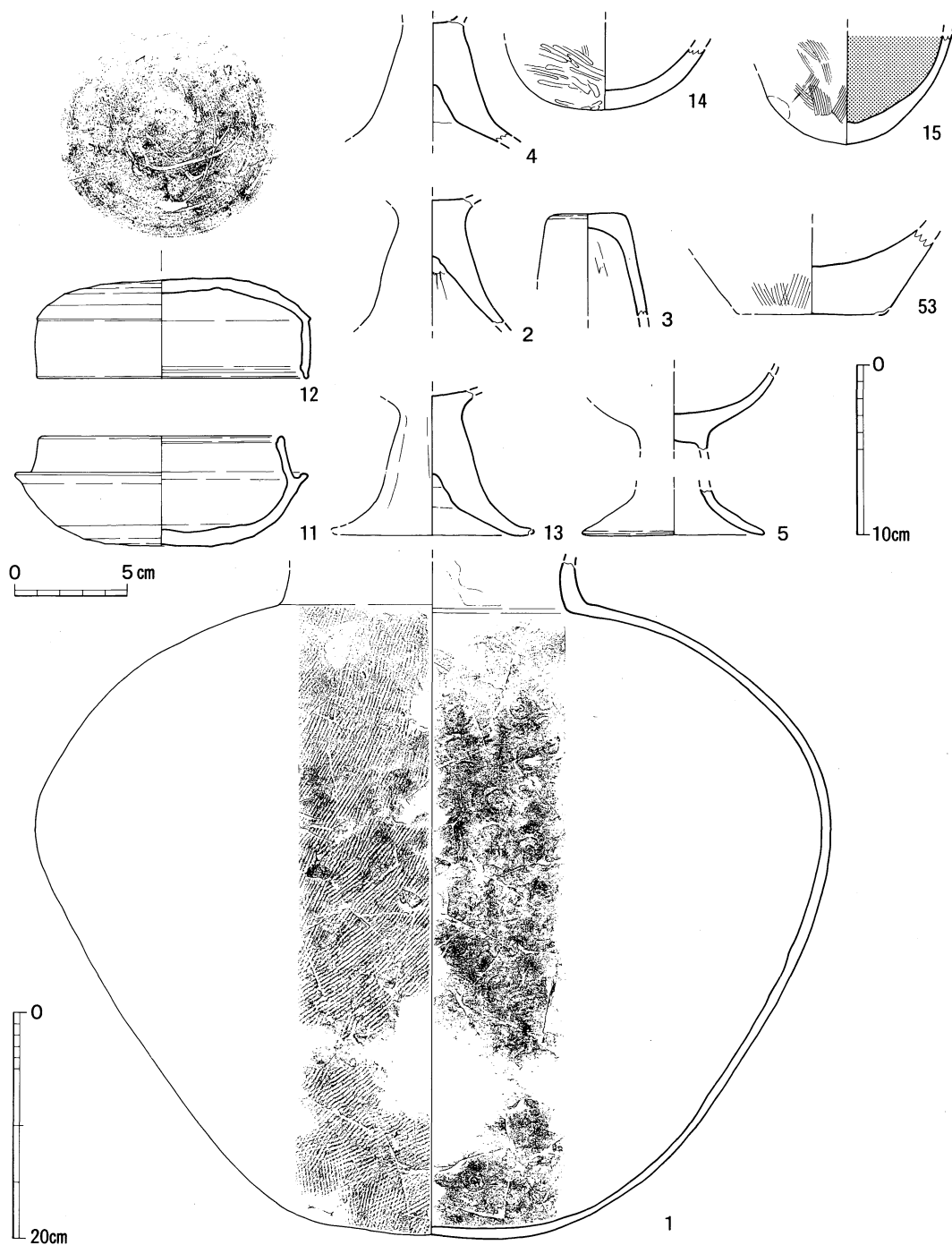
5と50～52は7号貯蔵穴出土。5は底部である。底径9cmを測る。調整は外面刷毛目、内面ナデである。内外面共二次加熱のため赤変し、黒褐色を呈する。50は穿孔をもつ底部である。穿孔は焼成前に行う。調整は外面刷毛目、内面ナデである。色調は黄茶褐色である。底径7.2cmを測る。51は穿孔のある底部である。穿孔は焼成前に行われる。底径7cmである。色調は茶褐色である。52は甕体部片である。体部上端に1条の沈線を巡らす。調整は体部外面縦刷毛目、内面ナデである。色調は褐色である。

須恵器・土師器（図版4、第4図）

1～5と11～15と53は表採資料。1は大甕である。口縁部は欠失している。かなり歪んでいるが胴最大径部は65～70cmを測る。2、4と13は高杯の脚部である。脚部は上半が柱実で、下半が外方に大きく張り出す。3は脚である。脚下半は欠失している。5は高杯である。脚上半



第3図 4号・7号貯蔵穴出土土器実測図(1/4)



第4図 神崎遺跡表探土器実測図 (1/6・1/3)

部が欠失している。脚底径10.6cmを測る。11は杯身である。立ち上がりは長いやや内傾する。口縁端部は若干つまみ上げる。調整は底部外面へら削り、それ以外はナデである。口径11cm、蓋受け径12cm、器高4.9cmを測る。12は杯蓋である。天井部は平坦で、天井部と体部の境に段を持つ。体部は直立し、口縁端部は斜めにつまみ上げる。調整は天井部へら削り、それ以外ナデである。天井部にはへら記号が見られる。口径11.2cm、器高4.5cmを測る。12と13それぞれの口径、蓋受け径からしてセットにはならない。13は底径が12cmを測り、調整は外面縦方向の削り、内面ナデである。色調は橙褐色である。14、15は碗状の底部である。14はへら磨き、15は刷毛目調整である。53は底部である。底径8.6cmである。調整は外面刷毛目、内面ナデである。色調は黄褐色である。

鉄製品（図版7、第6図）

1は剣である。1号石棺墓内出土。残存長35cm、身幅3.5cm、身の厚さ0.8cmを測る。

2は鹿角装刀子である。2号石棺墓内出土。身部は片刃で、柄部は鹿角で仕上げる。残存長11.2cm、鹿角装部長4.2cm、身部長6cm、背の厚さ0.35cmを測る。

3は柄部である。2号石棺墓内出土。身部は欠失している。柄部端部は尻上がりになる。柄木を丁寧に葛巻きしている。単位1本の糸幅は1.5～2.0mm弱である。柄部幅2.5cm、残存長12.5cmを測る。

石製品（図版5～6、第5～6図）

1～3は砥石である。1はとても目の細かい砂岩、欠損部分が多いが2面使用している。1号貯蔵穴出土。2はやや荒い砂岩である。欠損部分があるが、2面使用している。上面は窪んでいる。9号貯蔵穴出土。3はやや荒い砂岩で、直方体を呈する。上下面及び一側面の3面使用している。下面には筋状に溝が走る。

4と5は打製石斧である。4は刃部幅が若干広いバチ形をしている。全長14cm、幅6.5cm、厚さ1.1cmを測る。3号貯蔵穴出土。5は刃部が不明で半折している。2号貯蔵穴出土。

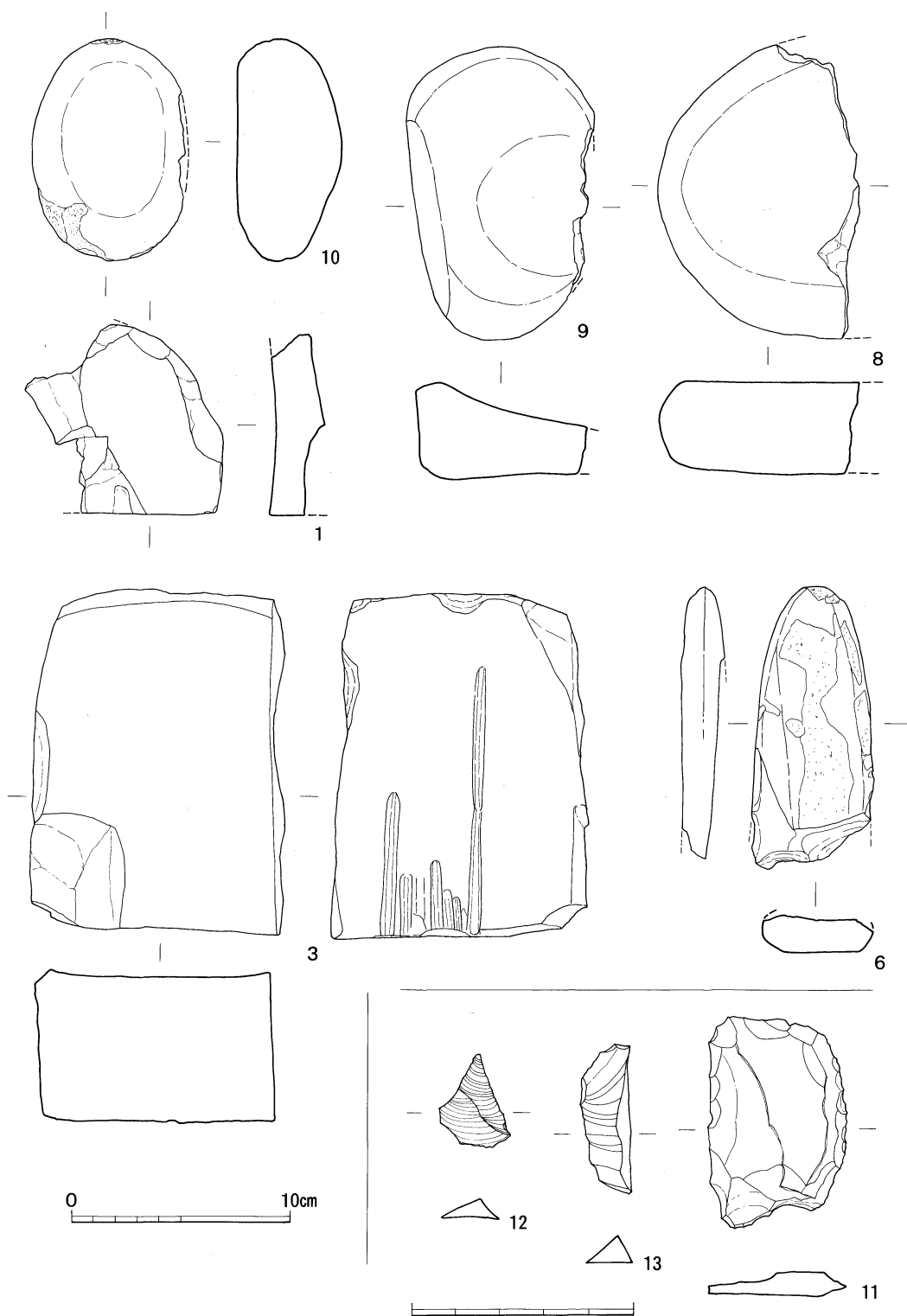
6は磨製石斧である。表面は剥離し、基部などが折損している。表採資料。

7は石槍状のものである。残存長7.6cm、幅2cm、厚さ1cmを測る。4号貯蔵穴出土。

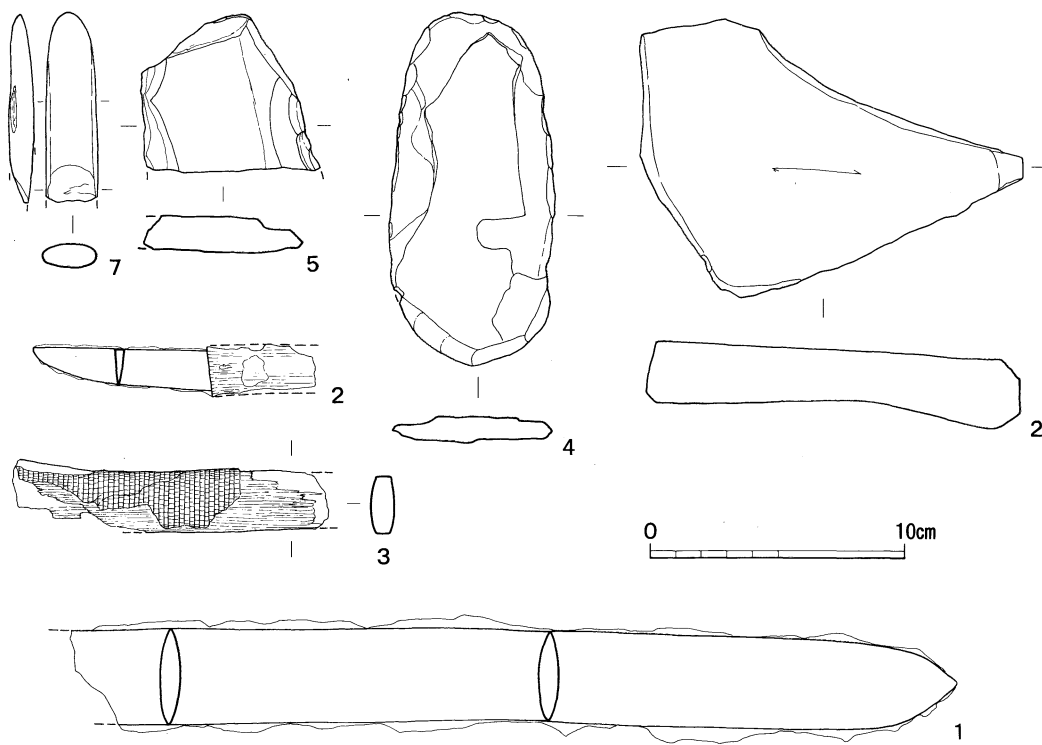
8と9はすり石である。8は表面が平坦でとてもなめらかである。石材は変成岩で、色調は黄土色である。1号貯蔵穴出土。9は中央部が大きく窪んでいる。石材は変成岩で、色調は黄土色である。9号貯蔵穴出土。

10は叩き石（？）である。両端に叩打痕状の窪みがあるが、あまり顕著なものでない。石材は変成岩で、色調は黄土色である。全長10.1cm、幅6.9cm、厚さ4.7cmを測る。9号貯蔵穴出土。

11はサヌカイト片である。側面に刃部を作り出す。全長4.8cm、幅3.1cm、厚さ0.6cmを測る。



第5図 神崎遺跡出土石製品実測図（1／3・2／3）



第6図 神崎遺跡出土石製品・鉄製品実測図（1／3）

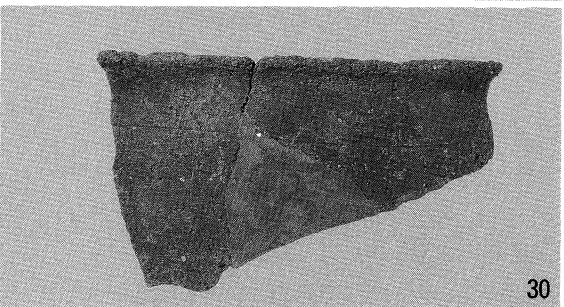
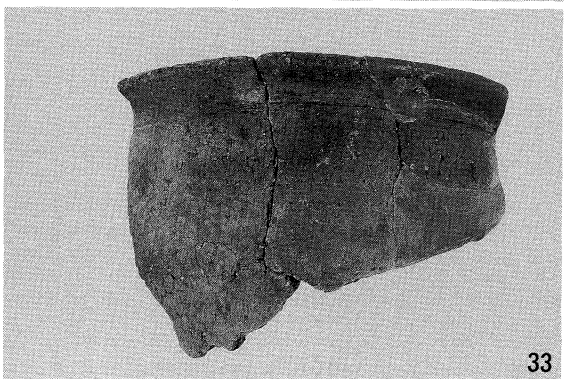
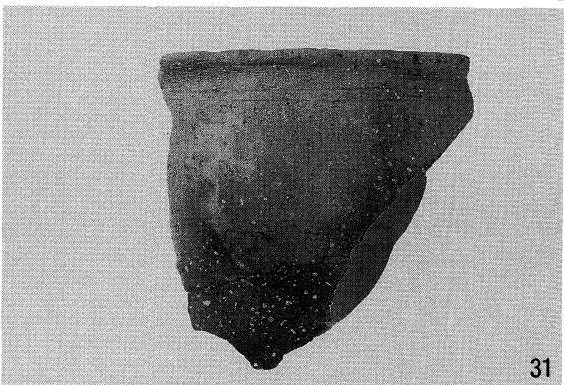
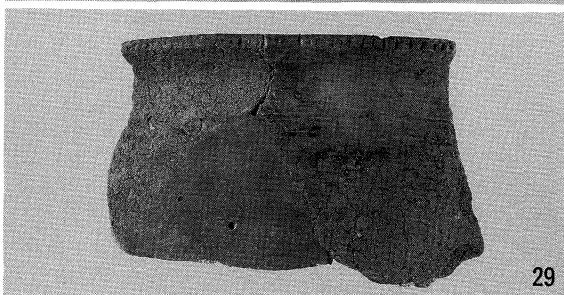
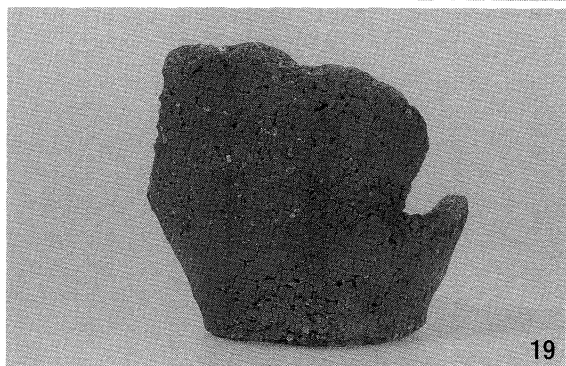
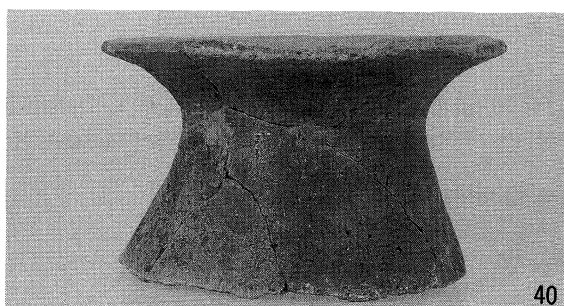
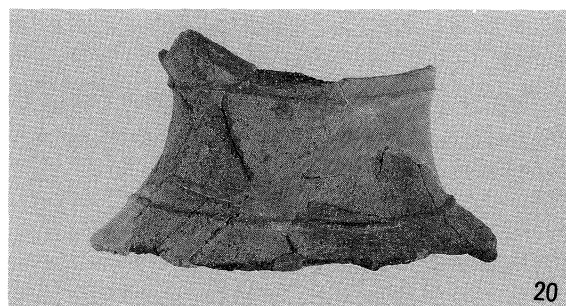
3号貯蔵穴出土。

12と13は石核である。12は腰岳産黒曜石で3号貯蔵穴出土、13は姫島産黒曜石で8号貯蔵穴出土である。

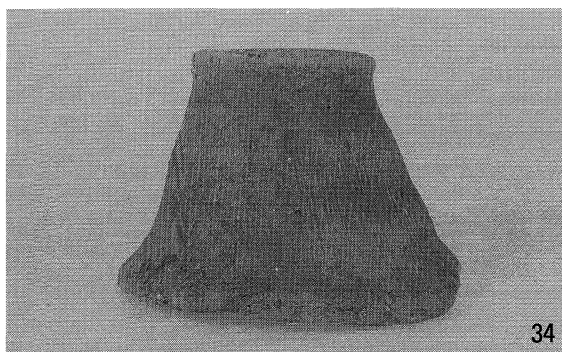
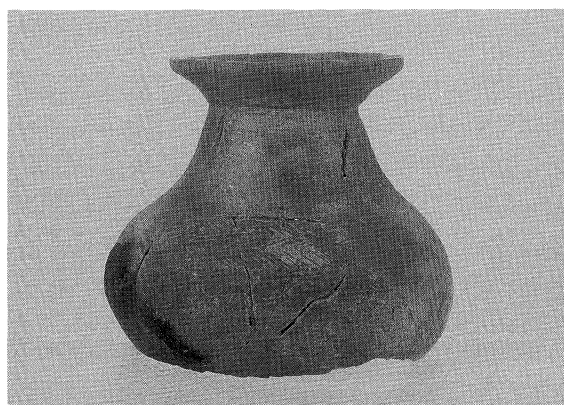
人骨（図版7）

1号石棺墓内出土。残存部位は少ないが、熟年男子の恥骨の一部であると思われる（九州大学大学院比較社会文化講座 中橋孝博教授の御教示による）。

図 版



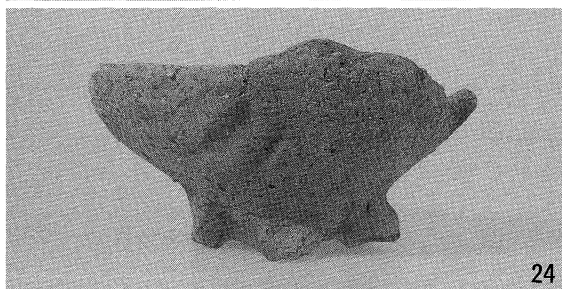
神崎遺跡 1 号～3 号貯蔵穴出土土器



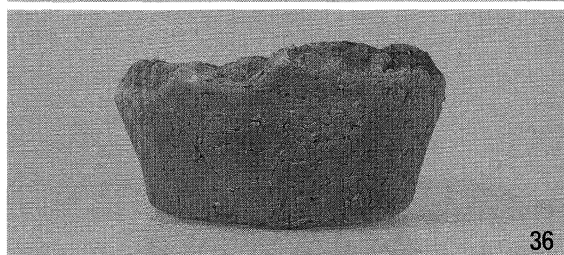
34



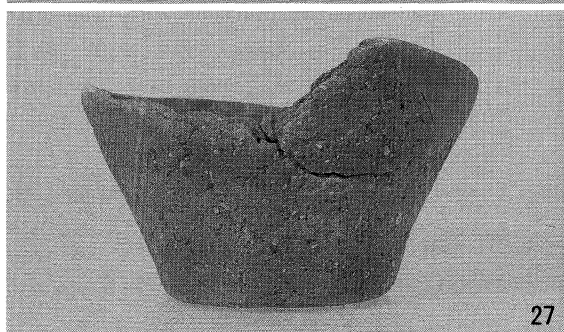
35



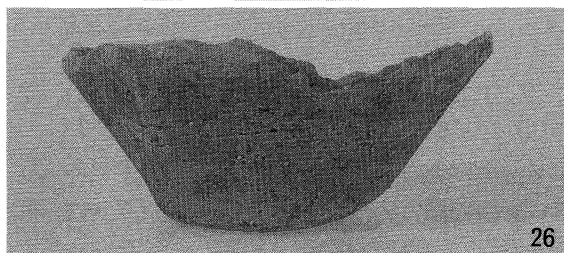
24



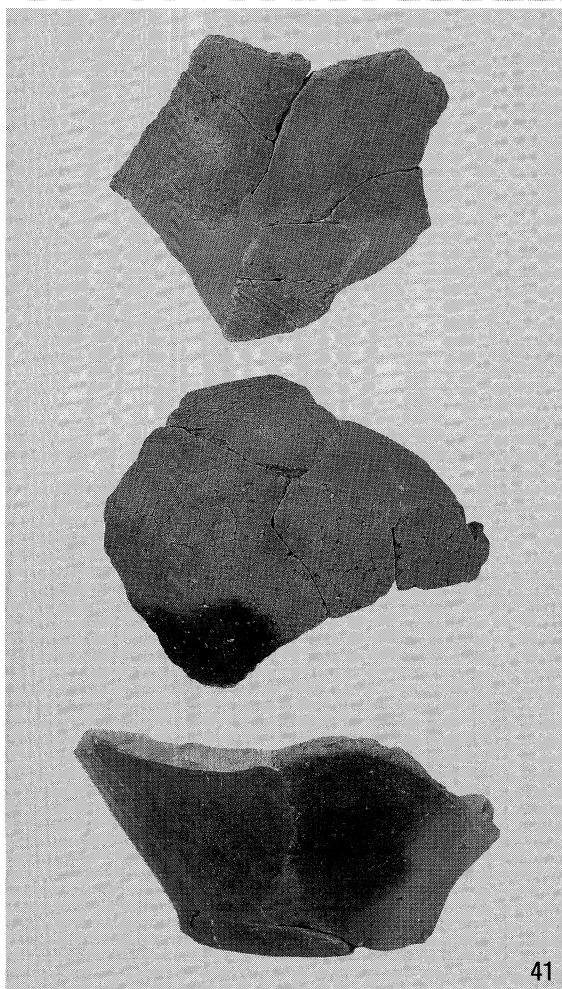
36



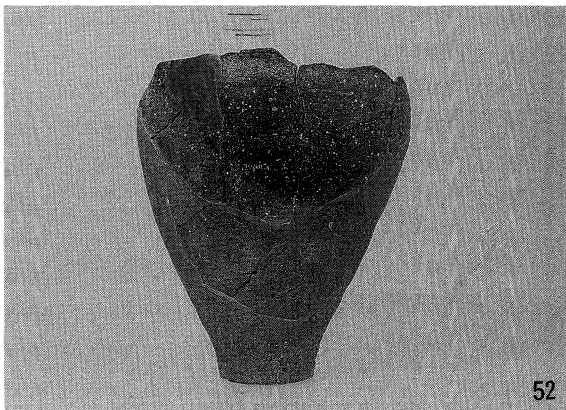
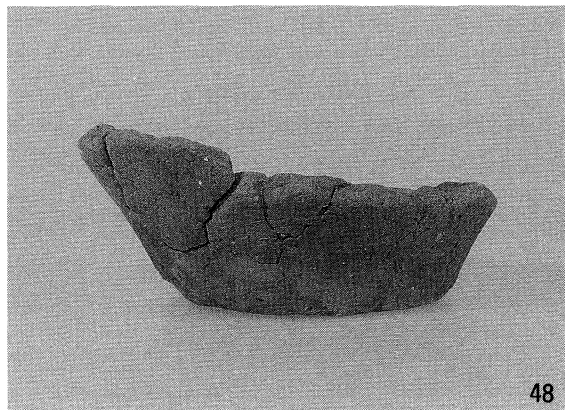
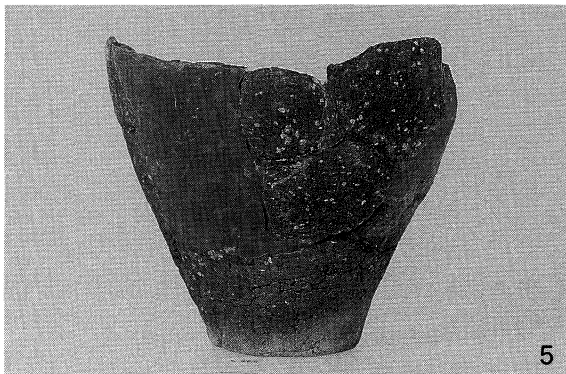
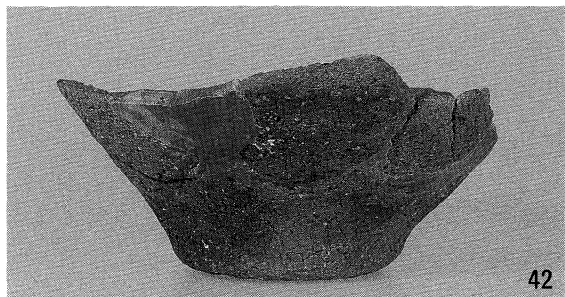
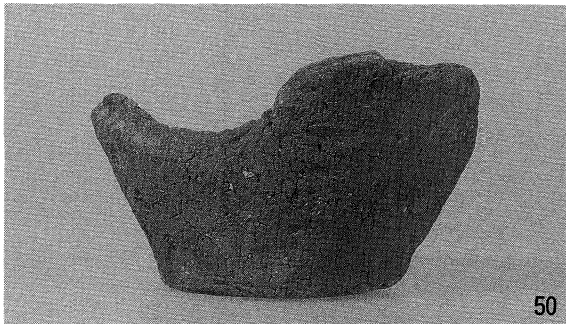
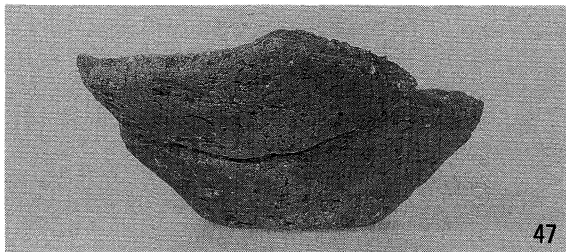
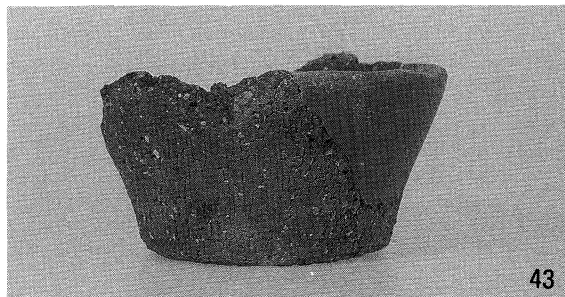
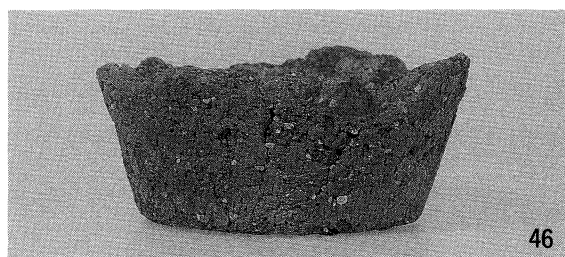
27

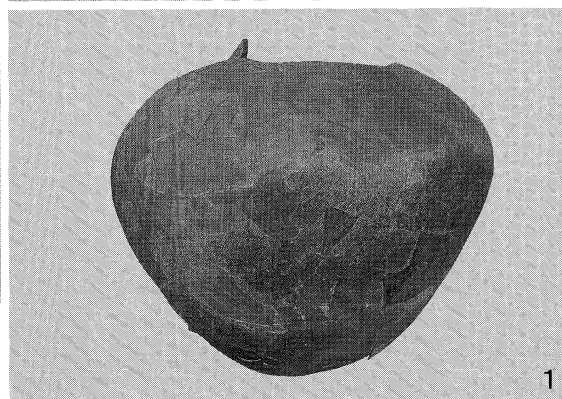
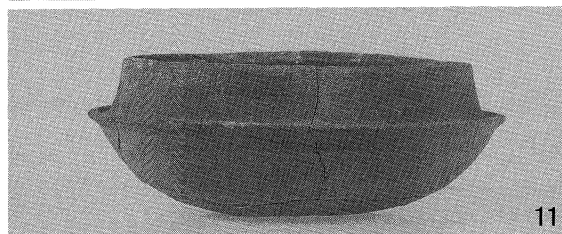
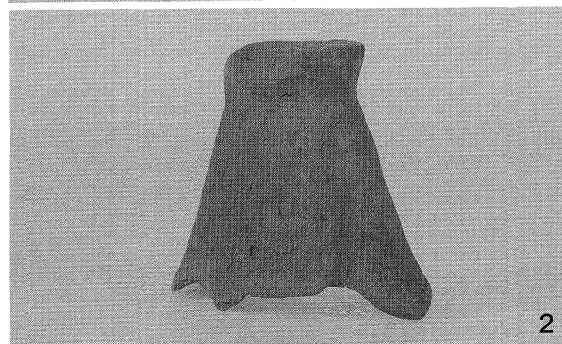
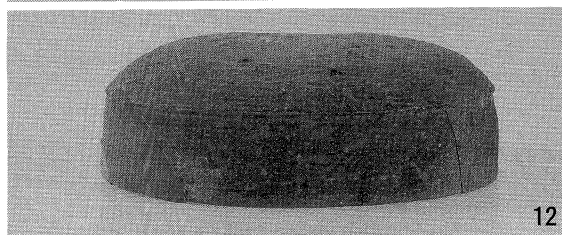
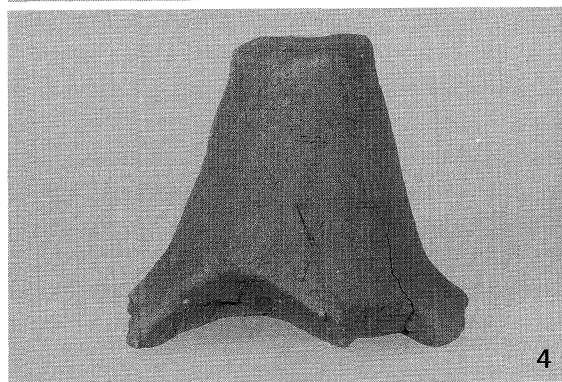
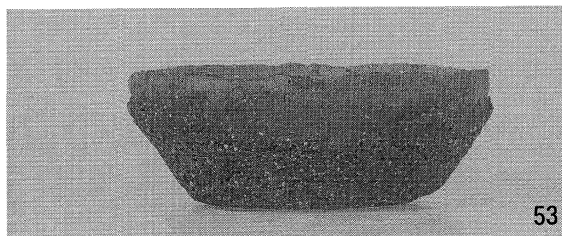
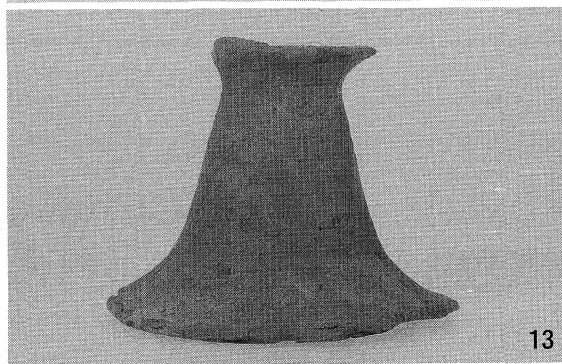
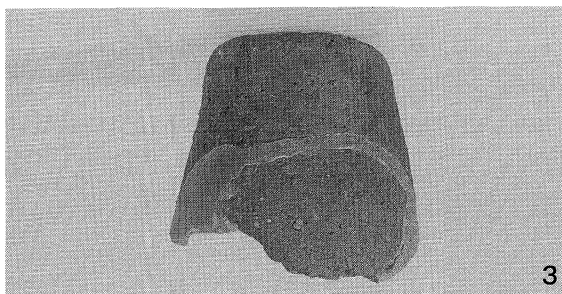
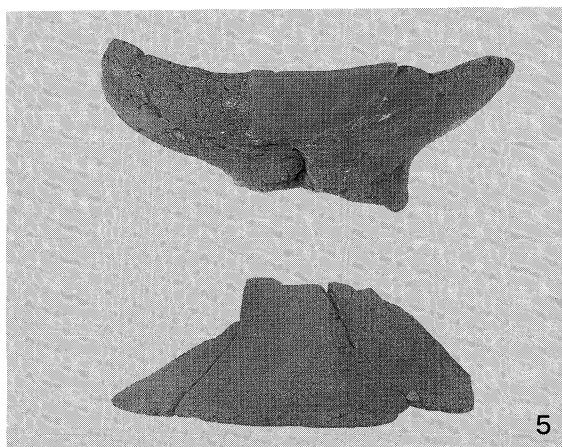


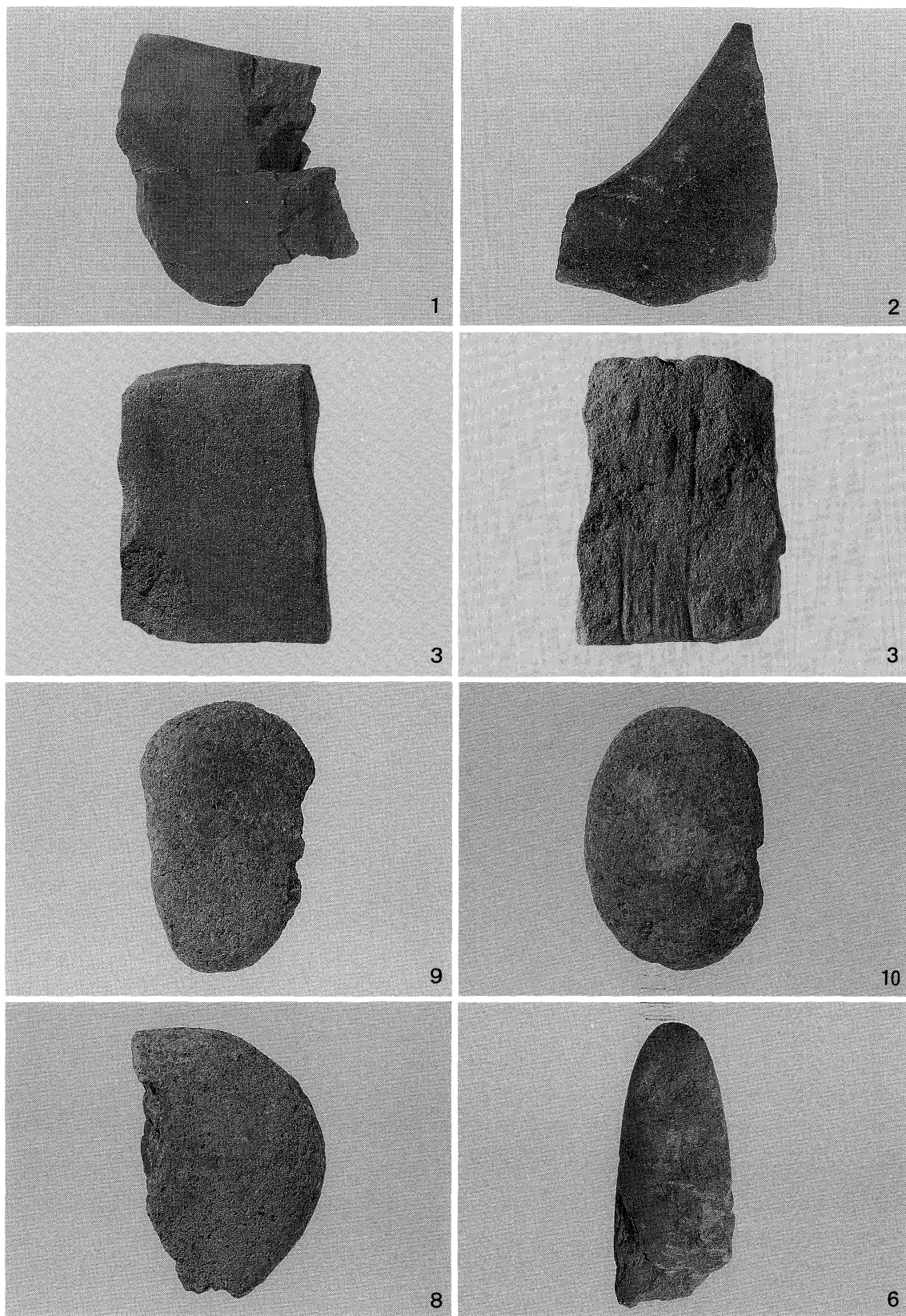
26



41







神崎遺跡出土石製品

